

住居内安全事故の實態，個人特性事故相互間の關係

漢陽大 ○ 申京珠， 漢陽大 李敏兒

目的： 居住者が安全で便利な生活を営めるように安全な住宅の計劃に必要な資料の提示を目的に，今度は住居内での安全事故實態と事故による被験者の個人特性と事故相互間の關係を分析した。

方法： まず大都市所在の綜合病院の1987年と1992年の應急室患者の記録から住居内の安全事故による患者を選んだ．ここから必要な事故の實態(類型，場所，程，原因等)，個人特性(性別，年齢，住宅等)をもってカードを作った．

得られた750サンプルをSAS/PCを利用して處理し，まず事故の比率，事故の實態等の分析をした．その後，事故實態間の相互關係と被験者の個人特性と事故實態との關係の分析のためlog-linear modelを利用した．

結果： ①事故の類型と事故の程の關係が認められた．軽事故は接觸によるものが多かった(82.5%)．②事故の類型と事故の場所，事故の要因間の關係が認められた．・落下型は大部分の場所で建築の設備要因による．・接觸型は管理的な要因による事故が多かったが，附屬空間では建築設備要因による事故が多かった55.6%)．・危険物型事故は生活空間では建築設備要因による事故が63.2%，作業衛生空間では管理的要因による事故が50.0%，屋外空間では個人的要因による事故が60.0%の高い率に起こり，各場所で明確な事故の要因がつかまれた．③事故の場所，事故の程，事故の要因間の關係が認められた．重傷は建築設備要因による事故が多かったが，その中でも附屬空間では別の條件に關係なく，そうであった．④その他にも事故被験者の特性と事故程との關係等も把握できた．